令和２年度　第 13 回練馬区介護保険運営協議会　会議要録	
１　日　時	令和３年３月 24 日（水）　午後５時から午後６時まで
２　場　所	練馬区役所　本庁舎５階　庁議室
３　出席者	（委員 20 名） 市川会長、内藤会長代理、井上委員、岩月委員、腰高委員、嶋村委員、関委員、 高原委員、竹中委員、中村（正）委員、石黒（久）委員、大羽委員、長谷川委員、 増田委員、林委員、福島委員、山下委員、中迫委員、酒井委員、小川委員 （区幹事　５名） 高齢施策担当部長、高齢社会対策課長、高齢者支援課長、介護保険課長、地域医療課長 ほか事務局４名
４　傍聴者	０名
５　議　題	（１）第８期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定について （２）講話 （３）その他
６　資　料	１　次　第 ２　委員名簿および座席表 ３　資料１　第８期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 ４　資料２　第８期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画　概要版 ５　資料３　練馬区通所サービス調査報告書 ６　資料４　「新型コロナウイルス時代における地域ケアを考える」 〔参　考〕 １　練馬の介護保険状況について（１月分） ２　練馬の介護保険状況について（２月分）
７　事務局	練馬区　高齢施策担当部　高齢社会対策課　計画係 TEL　03-5984-4584

会議の概要

（会長）

ただ今より第 13 回練馬区介護保険運営協議会を開催する。

本日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスクを着用の上、間隔を空けて着席いただいている。なお、発言の際にもマスクを着用し、会議中は適宜扉を開放するなど、換気を行うため、協力をお願いしたい。

それでは、委員の出席状況、傍聴者の状況の報告および配付資料の確認を事務局からお願いする。

（事務局）

【委員の出欠、傍聴の状況報告、配付資料の確認】

（会長）

それでは、案件（１）「第８期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定について」をお願いする。

（高齢社会対策課長）

【資料１　第８期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画、資料２　第８期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画　概要版、資料３　練馬区通所サービス調査報告書の説明】

（会長）

質問、意見等はあるか。

それでは、案件（２）「講話」に移る。資料４「新型コロナウイルス時代における地域ケアを考える」をご覧いただきたい。新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域ケアは非常に厳しい状況になることが想定されることから、関係機関・関係自治体と情報交換を行ってきた。

２ページ目をご覧いただきたい。今までの地域福祉課題の顕在化についてである。2025 年問題や限界集落の増加などの課題が顕在化してきている。大都市においても団地などには限界集落がある。8050 問題、子どもの貧困、高齢者のひきこもりや閉じこもりが深刻な課題となっている。初老期からのひきこもりは今後も問題となっていくだろう。

５ページでは、生活困窮の広がりについて記載した。生活保護を受給している高齢者世帯は 89.7 万世帯で、受給世帯総数の 55.5%を占めており、そのうち 91%が単身世帯である。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた世帯への貸付事業が行われているが、今後、財政面等で徐々に影響が現れるだろう。東京都では貸付金が 1,000 億円に達することが予想され、75 歳以上の高齢者も申請している。少額年金受給や無年金の高齢者も含めて、貧困問題が非常に広がっているということはきちんと捉えておく必要がある。

コロナ禍において、今までの問題が深刻化したという現状認識をはっきりと持っているわけである。

７ページをご覧いただきたい。地域における高齢者・介護する家族等の生活問題が深刻化している。新型コロナウイルス感染症の拡大により孤立状態となり、フレイルから要介護状態になる方がいるだろう。身体機能の低下により、自宅で転倒し骨折する方が増えているということである。

特に８ページの「④増加する孤立状態にある高齢者」で記載したように、社会との関わりがなくなり、それによって精神的に辛い方も多くいるだろうし、虚弱な方が要介護状態になると家族も含めて対応が課題となってくる。

９ページでは、介護事業者・見守り活動等の活動の課題として、活動が止まっているもしくは活動が非常に難しいということを示している。東京都の推計では、ショートステイ等が非常に大きなダメージを受けている。事業継続の危機や特別養護老人ホームにおける集団感染への対策など、様々な問題が起こっており、事業者が疲弊している。

見守り活動等が中止となった結果、高齢者の孤立の問題が顕在化してきた。高齢者自身に留まらず、活動に取り組んでいた方たちが疲れていて、事業を一度休止してから再開する場合、多くの地域サロンがすぐに再出発できないだろうとも言われている。緊急事態宣言で急遽活動を中止したところもいくつも出ているが、徐々に活動を始めているところもある。利用者には、こういったサロン活動は不要・不急ではないということを分かってほしいと盛んに言われていて、私たちは、集まり合う運動は不要・不急ではないという声に応える必要がある。

16 ページ。これからの地域ケアに求められることについて、基本的な考え方を明記する必要があるだろう。

１つは自らの働きがこれでいいのかと、活動やサービスのあり方をもう一度問い直すことが大事である。また、地域や地域ケアのあるべき姿は何なのかという本来の議論をきちんとしておかなければ、せっかくの機会が効果を持たない。そして、協働した働きを始めることである。この３つの基本的な考え方を持ちながら、コミュニティを再生していく、もう一度地域を再生していく、そのような考え・目標を持たない限り、もしくは福祉を再編していくという考えを持たない限り、これらの課題は乗り切れないだろうと私は考えている。

17 ページに、「新型コロナウイルスの広がりは、今までの関係を打ち砕き、不安、恐怖、不信、怒りを生み出し、負の連鎖が広がってきています。だからこそ、私は、大切なもの、大切なことを守る決意が必要だと思います。私は、その中に「人への思いやり」を加えたい。そして、コロナウイルスの脅威にさらされている私たちだからこそ、今、すべきことを考え、今できることを実践していきたいと思っています」と記載している。これから、試行錯誤しながらも、実際に計画が実行できるかという正念場を迎える。そのような意味では、自らの働きをここでもう一度捉え直していく必要がある。

18 ページでは、地域・地域ケアのあり方について記載している。一体、私たちはなぜ地域ケアに取り組むのかということを踏まえて再編していくことが必要であり、協働した働きを進めることが大事である。

19 ページには、具体的な検討課題、「①取り組みのための６段階」を書いている。第１段階として、もう一度、この地域の状況を把握し、明確化する。先ほど高齢社会対策課長から話があったように、本来の介護保険事業計画は、前年の調査に基づけば良いが、新型コロナウイルス感染症で全く変わったために、ほぼ使いものにならない。そのような状態がある中で、もう一度再編してきたところである。

20 ページに記載したとおり、高齢者の安否確認、現状把握のための仕組み作りをしながら、住民ニーズの把握をきちんとしておくことが重要になってくるだろう。様々なやり方がある。事業者やボランティアに聞くといったことも検討し、住民ニーズの把握を行う必要がある。

もう一点は、今、ケアラー（介護者）をどう支援していくかを問わなければいけない。ケアラー支援がもう一つの軸になるだろう。

㋑第３段階にあるとおり、「目指す地域・地域ケアを描く」に「接木」と書いたが、接木は、今まであるものにつけて加えていくことを指す。既存の取り組み等の実績を活かしながら、新しいサービスを組み合わせていき、どのような強みがあるのか、それぞれ分析していくことが必要である。

21 ページには、ケアラー支援に重点を置いている調布市のケアラー支援の取り組みを掲載した。

24 ページには、第４段階・第５段階で、孤立を防ぐ様々な方法を開拓について記載した。食の確保、服薬や医療、外出の支援、支援者の有無を把握するために必要に応じた自宅訪問、また、訪問できない場合の電話、必要な情報の自宅への配布、牛乳配達をしながら把握するなど、あらゆる孤立を防ぐ様々な方法を急いで開拓しなければ、潜在化してしまうだろう。

推進する専門職の権限の明確化とバックアップも考える必要がある。特に地域包括支援センターもそうだが、地域福祉コーディネーター、コミュニティーソーシャルワーカー等が配置されている。ここをどうバックアップするかを考えることが必要であり、従来の地域サロン活動、健康体操をもう一度復活し、とにかく孤立を防ぐことが大事である。

25 ページでは、感染予防および感染時対応が急務とされ、具体的に実施されていることについて書いている。

スクラップ・アンド・ビルドをするときには、連携が多岐にわたり、同じ人が様々なところで集まっているのはもったいないため、協議の場をスリム化することが必要である。そして、ＩＴ等で工夫すれば更に様々な活動ができるはずである。練馬区は非常に積極的な自治体のため、取り組んでほしい。

そして、優先事項をはっきり決めることが必要である。私は、ケアラーケアと孤立予防、貧困対策も含めて進めていくことが必要ではないかと思っており、記載した。

今まで経験して政策に活かしてきたものをいくつか取り上げたところである。

ご質問、ご意見等はあるか。

（委員）

会長の話を聞いていると、第８期計画を策定したが、組み込まれていない部分が随分あると感じた。第８期計画は新型コロナウイルス感染症の流行にも関わらず、大変苦労して策定したが、素晴らしい講話を聞き、本当に第８期計画は大丈夫かと、相当に見直しをしなければいけないのではないかという気になってきた。

（会長）

計画は、ここできちんと枠組みを作るものである。実際の運営においては、計画をどう具体的に現場で適用していくかということになる。本計画が違っているわけでは全くない。

実際のフィールドで分析するときには、まちづくりの議論等を理解する必要があるし、特に地域をどう考えるかは、共生型社会という概念が入っているため、地域共生をどう実行するかというときに、実際にこれをご覧になったらどうかという意見を申し上げているとご理解いただきたい。

ゼロから始めるとは全く思っていない。この計画を実施していくということである。

（委員）

この１年間、現場にいて、利用者に感染症が広まらないようにと、職員とともに精一杯の努力をしてきた。しかし、その中でもやはり職員も孤立し、利用者も孤立し、家族も接点を持たない中で苦しんでいたと感じている。今回、計画が策定されたが、現場で我々が働いていく中で、コロナ禍でもできること、コロナ禍でも家族と新たな関係を作っていくこと、利用者に少しでも潤いのある生活をしていただくことについて、ある意味で、我々ができないと思っていたところを勇気を持ってもう一歩踏み出さなければ、コロナ禍に飲み込まれて行くのではないかと感じた。この期間にも亡くなった方は多くいて、その方々への後悔も多くある。そういったものを次にぜひ活かしていきたいと思っている。

第８期計画については、現場の思いを聞いていただいたため、本当にありがたいという思いとともに、現場で働いている職員に対して区からの支援も多くいただき、このような場で発言させていただく機会もいただけてありがたい。

（会長）

それでは、続いて案件（３）「その他」の報告事項をお願いする。

（介護保険課長）

【参考資料１　練馬の介護保険状況について（１月分）、参考資料２　練馬の介護保険状況について（２月分）の説明】

（会長）

最後に、各委員より一言ずつ１分程度でご挨拶をお願いする。

（委員）

第７期は、新型コロナウイルス感染症の流行で大変苦労されたと思う。私も書面で意見を述べなければいけなかったため大変苦労に感じたが、第８期計画がきちんとできて喜んでいる。

私は、第５期、第６期、第７期と３期連続で通算９年にわたって公募委員を務めさせていただき、大変感謝している。そろそろ体力も衰えてきたので、今後は一区民として高齢者福祉に協力したいと考えている。

（委員）

私も何回も介護保険運営協議会の委員をさせていただいたが、毎回、どんどん計画の内容がよくなっていると感じる。会長をはじめ職員の方々に感謝している。これがどのように育っていくのか、ずっと見ていきたい。新型コロナウイルス感染症によって、スクラップ・アンド・ビルドのスクラップの部分とビルドの部分が今後どうなっていくのか見ていきたい。

（委員）

第８期高齢者保健福祉計画の第４章「高齢者保健福祉施策」の施策１「元気高齢者の活躍と健康づくり・介護予防の一体的な推進」があるが、元気高齢者を増やすには高齢者の意識改革が必要である。フレイルサポーター育成・支援事業、つながるカレッジねりま、高齢者みんな健康プロジェ

クトの実施と、様々な事業に取り組むことは良いことである。問題は、元気高齢者に情報を届けられるか、参加を促すことができるかである。介護予防・認知症予防事業のために、練馬区独自のインセンティブが必要だと思う。

私自身は、なるべく長く元気高齢者でいられるように、また介護認定を受けるようになったら認定期間は短くなるようにと願っている。

（委員）

昨年、今年と新型コロナウイルス感染症が介護保険事業にも大きな影響を及ぼし、今までのトレンドで物事が考えられなくなってきたということを非常に心配している。介護の利用者、通所サービスも利用者が減ってきたというような急激な変化もあるが、モニタリングを臨機応変に行い、この激変に備えていく必要があるのではないかと思っている。

（委員）

初めて今期から委員になり、約３年間、務めさせていただいた。何の専門知識もない中、会長をはじめ高い見識を持つ皆様の意見を拝聴し、自分なりに介護についての理解・意識が高まったと感じている。

この目標にもあるが、医療と介護の連携の重要性を改めて痛感した。練馬区は先ほど会長が話したように、介護では先行している面が多いと思っている。真の意味での医療と介護がワンストップでつながり、利用者、高齢者、区民にとって有効に作用することを望んでいる。

（委員）

2025 年が４年後に迫っている現在、去年から世界的な新型コロナウイルス感染症によって、かつてない非日常、非常識の社会に翻弄されている。計画の目標である、端的に言うと地域包括ケアシステムの確立に向けて英知を集めなければならない。現在のサービスの利用控え、あるいは利用者数の減少に対して対策を講じ、外出あるいは交流の自粛が強要されているが、その結果として身体活動量の低下等の様々な負の連鎖が我々の周辺にある。特にこれからの元気高齢者に対して、高齢者みんな健康プロジェクト等の計画の実行を積極的に進めていく必要がある。

第一に、個々の新型コロナウイルス感染症の防止を自覚し、徹底して防止する。感染をまず減らしていかなければならない。その上で、非接触あるいは非接近が強要されているが、その中でも可能な限りのコミュニケーションを図っていくこと、そして協働する、孤立や不安や不信を払拭していく、一つ一つ解決策を講じていくということ、会長の講話に示された、自らの働きを問い直し、コミュニティの再生、具体的な検討課題に取り組んでいきたいと思っている。

ウィズコロナの厳しい環境を超えて、第８期計画が達成されることを信じている。

（委員）

私自身は親を全て見送っているが、周囲には親の介護に追われている人が多く、介護保険制度を利用している。また、私始め、頼れる親近者がいない知人が多く、自分たちの老後も心配な年齢になり、区の介護福祉に大きな関心を持っていた。

３年前、練馬区介護保険運営協議会の委員を委嘱され、高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画の策定に初めて携わり、策定の過程を目の当たりにして、膨大な仕事量に対しながら、その緻密で真摯な取り組みに感嘆してきた。

施設見学等により区の介護福祉への委員の理解を深め、アンケートにより高齢者や事業所等

当事者の意識を汲み取り、何回も丁寧な会議を重ねることで委員の意見を反映させ、パブリックコメントを通して区民の意見一つ一つに真摯に対応し、ここまでの計画にまとめ上げられたのはたいへんな苦労だったと思う。深く感謝を申し上げる。

基本案が固まりつつあった昨年、思いもよらないコロナ禍が起こり、方針やさまざまな具体策を根本的に変えなければならなくなった事態にもなった。コロナ禍による高齢者への影響は、身体活動の低下、鬱的状態の増加等さまざまな形で表れてきている。先の見通せない現在、介護支援の在り方も工夫が必要とされているが、次期計画では、このような状況にもきめ細かく対応する計画にしていかなければならないと思っている。

多くの国民が頼りにしている介護保険法の内容が、今、後退する傾向にあるそうだ。区においては、財政面等難しい問題も多々あると思うが、今後も、多様な意見、ニーズを汲み取りながら、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる計画にしていただけるようお願いしたい。

私自身も、周囲の高齢者やその近しい人の意見や考えを反映させ、私たちの支えである介護保険の理想を守り実施され、区民の皆さんに、血の通った、現状に合った温かい計画を作れるよう努力していきたいと思っている。

（委員）

毎回、膨大な資料を見ることができ、それを十分に理解しているかというとそうではないと思うが、作成される側、また資料を読む側、書面会議でも、かなり膨大な資料を送られてきて読むわけで、自分として知識不足の面、勉強が足りない部分、後になって読み起こす部分が多くあり、本協議会に参加して本当に良かったと思っている。

これからも、色々と勉強する部分は多くあると思うが、本協議会で示された資料を読み返すことがまた一つ大切なことかと思っている。

（委員）

新型コロナウイルス感染症が、昨年から我々の医療界を席巻し、なかなか手が回らない状態で、介護のところまで行き着かないという状況に正直ある。

４月１日から医師会で医療連携・在宅医療サポートセンターを立ち上げることになり、在宅医療と病院との間を結ぶ取り組みが始まる。どの程度、区民に浸透できるのか、役に立てるのか分からないが、取り組んでいきたい。通所介護あるいは通所リハビリテーションは利用者が減り、その代わりに在宅医療や在宅介護の希望者が増えていると聞く。先ほど話のあった介護をされる方、あるいは、お互いに介護をする立場の方たちが大丈夫なのか、いかに地域包括支援センターを含めて、地域の方たちでサポートできるのかが今後の大きな課題だろう。

（委員）

昨年の今頃から新型コロナウイルス感染症が流行した。社会福祉協議会では、仕事がなくなって収入が大きく減った方に対して、区と連携して、特に生活資金の貸付を中心に相談支援に当たってきた。今日でも、電話が鳴ったり、利用者が大勢来ており、対応している。ただ、これは応急的な対応と思っている。実は、それぞれの方の抱える生活課題にきちんと向き合い、孤立させない、孤立を防いでいくことに取り組むのは、まさにこれからではないかとも思っている。

新型コロナウイルス感染症がもう少し収まる状況を待ち、専門機関の皆様あるいは民生・児童委員の皆様とも協力し合いながら、孤立させないような地域づくりに、社会福祉協議会としては力を注いでいきたい。

（委員）

新型コロナウイルス感染症で、民生委員活動も約２年間はトンネルの中に入って真っ暗で、近隣の困っている方々との連絡もつかない状況である。高齢者のひとり世帯調査も、行政に任せて、封書でのやり取りとなっている。民生委員が一切そこにタッチしないため、何も分からなくなり、近隣の困っている方々との連絡も絶えてしまった。先ほど会長が話されたとおり、全てがこれからまた一からというよりも、のり代を付け加えながら、もう一回、民生委員活動を考えていく必要がある。

そのような中で、本協議会に出席し、分厚い資料を読ませていただいた。民生委員も何か役に立つことがあるかなということを拾い読みしながら、この３年間お付き合いをさせていただいた。

（委員）

本日の会長の話を伺って、非常に自信がついた。ここのところ、本当に不安だった。

少しでも皆さんに集まっていただき、楽しい一日を過ごしていただきたいと考えている。しかし、本人は元気だが、そういったところへ行って病気になると他の人が困るから駄目だと家族が話される。そうすると、出るに出られずに、本当に気の毒である。昔は施設に入っている方は大変だ、気の毒だと思ったが、今はその方はとても幸せそうである。むしろ家族で、また独り暮らしの方は本当に気の毒である。

何とか会合で楽しいことをと思うが、人数制限などもある。そこで、計画の概要版の表紙にあるように、自宅でできる、まして家族とできるものをということで、老人クラブの女性部長が紅葉を折る取り組みを行った。区民の皆さん全体が折ったものの一部である。区長の許可を得て、区役所玄関に作成物を飾らせてもらった。表紙に選んでもらい、非常に嬉しい。これを持って帰ったら、皆さん非常に元気が出るのではないかと思っている。

それから、本日の会長の話を伺い、非常に自信になり、良い勉強になった。今頃であればどのクラブでも、団体で桜の花を見に行き、弁当をいただいて、楽しい一日を過ごすが、今年はできない。集まりがあっても、弁当は駄目だと言われる。かと言って家庭に持っていくのはもっと悪いような感じもするため、今とても悩んでいる。会長の資料を刷って、幹事に渡してみようと思っている。

（委員）

コロナ禍の中で、具体的な高齢者支援のための計画策定は、非常に苦慮されたのではないかなと改めて感じている。ただ、地域包括支援センターの現場では、コロナ禍から地域の方との活動やイベント、また、介護予防という視点では様々な活動が止まってしまっているのが現実である。

先ほど会長から話があったとおり、まずはやはり地域の皆様、事業所の皆様、これまで支援してくださっている皆様の今後の意向や、今できることを確認しながら、関わりの方法を取り戻し、そして地域との付き合いを再度立て直さなければ、新しい取り組みは進めていけないものだろうと思っている。現場の実情をまた引き続き、練馬区にも報告しながら、また柔軟に支援や展開の仕方を一緒に考えていきたい。

（委員）

会長をはじめ事務局の皆さんに感謝している。

私どもは介護事業者のため、計画策定を一つの契機として、現場でどのような工夫ができるのか、これから考えながら進めていきたい。今回は、これで一区切りとなるが、会長には、これまでもずっと練馬の福祉を引っ張ってきていただいたので、ぜひこれからも練馬の福祉を牽引していただきたい。

（委員）

平成 29 年６月、練馬区シルバー人材センターの会長就任と同時に、本協議会の委員に任命され、第７期と第８期の計画策定に関わった。約４年間、福祉や介護の問題について分厚い資料を読み、そして協議会に出席したことは、大変勉強になり、感謝している。

令和２年１月頃から新型コロナウイルス感染症拡大という難局に直面し、残念ながら第７期計画のすべての目標を達成することはできなかったが、世界的な感染症をどう乗り切るかというところで、介護関係、医療関係、区当局の皆様には、ご苦労が大変大きかったと思う。

第８期計画は、「練馬区高齢者基礎調査」など各方面にわたる膨大な調査を実施し、このコロナ禍の中で、緻密に分析・検討し、高齢者の意向も真摯に受け止めて、施策にまとめたものである。この労苦に対し心より感謝申し上げる。緊急事態宣言中の通所サービスの実態について調査結果をまとめ、第８期計画に生かしたこともすばらしいと思う。

書面会議の時は、練馬区シルバー人材センター会長として疎かには出来ないと思い、学生が宿題に取り組むように、徹夜で勉強し、一生懸命に意見書を書いた。私たちは一時のことだが、関係者の努力は並々ならぬことだったと思う。

資料４「新型コロナウイルス時代における地域ケアを考える」には大変感激した。特に「大切なもの、大切なことを守る決意が必要だ。その中に「人への思いやり」を加えたい」と書かれている部分について、コロナウイルスの脅威の中における地域ケアについての多くの指針を示していただき、感謝する。

この場には地域包括支援センターの方もいるが、第８期計画においては地域包括支援センターが要だと思う。私は電話訪問員を経て、平成 21 年から訪問支援員として活動しているが、ボランティアも、訪問を受ける高齢者も、もっと数が増えなくてはならないと思う。他の施策も含め、ＰＲが特に大切だと思う。

練馬区シルバー人材センターも、ひとり暮らしの会員が増え、高齢化も進み、多くの課題を解決しなければならない。研修を重ね、「自主・独立・共働・共助」の基本精神を忘れずに、元気高齢者として、練馬区、また世の中全体のために努力して役に立ちたいと思う。今後とも、ご指導・ご支援のほどよろしくお願い申し上げる。また、個人的にも皆様に深く感謝申し上げる。

（委員）

案件（２）でも申し上げたが、今後も現場の事業に取り組んでいる仲間とともに、精一杯実践してまいりたい。

（委員）

今期の介護保険運営協議会が始まった頃には想定していなかった新型コロナウイルスの感染拡

大で、社会のありようが大きく変わってしまった。ケアマネジャーとして関わっているお客様にも新型コロナウイルスの影響による外出自粛で身体機能の低下が顕著になってしまった方が何人かおられた。

また、自身が所属している法人が運営しているデイサービスでクラスターが発生してしまい、新型コロナウイルスの恐怖を身近に感じたこともあった。

高齢者施策に新たな課題が加わった。行政、専門職、区民等が知恵を出し合って対応する必要がさらに強くなっていると感じる。

任期中は多くのことを学ばせていただいた。感謝を申し上げる。

（委員）

弊社の主な業務は在宅での訪問サービスのため、普段の業務では直接関わりの少ない施設整備の経過報告などを聞くことができ、とても良い機会だった。訪問系サービスでは、介護業界全体の課題でもある人材不足なども深刻となっており、訪問ヘルパーの高齢化など 10 年先を見据えると、サービス提供が非常に難しくなる時期があると思っている。

先ほど会長より、ケアラーの話も聞き、弊社にも老々介護で頑張っている方がいる。今後、人材創出などの分野においてもテーマに挙げていただければ幸いである。

（委員）

この１年、在宅の方々の状況を見てきたが、会長の話のとおり、やはり予防の方々の認知機能の低下と運動機能の低下がみられた。また、在宅医療を求める方が多く、要介護度の高い方が在宅に戻られる傾向にあった。今後、この両方にどのような対策を講じていくのかが課題かと思う。

（会長代理）

大学のオンライン授業化など、この１年は新型コロナウイルス感染症の影響を非常に受けた。

例年であれば実施されている福祉・介護系の研修が、例えば東京都ではほぼ中止になり、ほとんど今も行われていない。学校関係はオンライン化が進み、福祉・介護系の研修も少しずつオンラインを使って実施するものも増えてきているが、まだまだ整備ができていないと感じる。

練馬区の計画では、新しく福祉の人材研修センターを作るということになっている。ケアラー支援の中でいくと、介護職の方の支援は非常に重要である。このコロナ禍でメンタルヘルスを維持していくということも大変大事であり、また、研修が途切れてしまうと自分の価値が上がっていくという、そういった経験がなかなかできなくなる。大学ではオンライン教育技術が上がっているため、ぜひ活用してもらい、新しい第８期計画の取り組みに協力できたらと思っている。

（会長）

資料４の 26 ページに、「②既存事業・活動の再評価が不可欠」と書いた。今までの活動をもう一度、ふさわしいかどうか、また求められているのかどうか再評価していくことが絶対的に不可欠である。これまでのやり方が使えなくなっているかもしれない。

民生委員には、私のＤＶＤを渡しているが、地域ケアについてのあり方等を述べさせていただいた。ＤＶＤといった形で、今はやるしかない。そういったものも活用しながら、できることがないだろうかと考えると同時に、自分だけで背負い込まないことが大事である。「協働」と書いているように、それぞれが協働して取り組んでいかなければ、今の状況は深刻なためサービスや支援が届かない。何かできることをそれぞれが見出し、可能な範囲で組み立てていくことが大事である。

ケアラーを支援するが、ここまで貧困問題やひきこもりの問題が出てくると、無縁社会に一歩踏み込んでいる状態である。そのような人が、地域の一員として老後を送り、そして豊かに、ある意味で天寿を全うできるような仕組みを一緒に考えていく必要がある。そうしなければ、かなりの孤立死が出てしまう。それを食い止めるにはどうするのか、そのようなときには自分だけで背負い込まず、協働して取り組むことが必要ではないかということを最後に申し上げたい。計画をどう実行していくか、まさに正念場で、挑戦がスタートしたと理解していただければと思う。

最後に、部長より一言お願いする。

（高齢施策担当部長）

長きにわたって皆様からご協力を賜り、第８期計画ができたことに、感謝を申し上げる。

今回の計画策定に当たっては、３年前と今の状況があまりにも変わっており、そういった中でも皆様から柔軟なご意見をいただき、そういったことも含めて対応していただいたおかげで、第８期計画を無事に策定できたと考えている。

福祉の現場として大事にしてきたこと、当たり前にしてきたことが今崩れている。そういった中で本当に必要なことは何かということが今後試されると思っている。

本日、私たちも会長の話を聞き、福祉に関わる者として皆さんも気持ちが高揚しているのではないかと思っている。こういったものを含め、今後、生きた計画にしていくためにも、皆様の協力が必要である。ぜひ計画を進める上で意見をいただき、一緒に取り組んでいきたい。よろしくお願い申し上げる。

（会長）

以上で、第 13 回練馬区介護保険運営協議会を終了する。